

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
沼津情報・ビジネス専門学校		昭和58年3月22日		三上 慎太郎		〒 410-0804 (住所) 静岡県沼津市西条町17番地1 (電話) 055-961-2555			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人 静岡理科大学		昭和27年3月31日		杉浦 哲		〒 420-0857 (住所) 静岡市葵区御幸町20番地 M20 13階 (電話) 054-204-2490			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
工業	工業専門課程	コンピュータ科		平成22(2010)年度	-	平成28(2016)年度			
学科の目的	社会の高度情報化に対応できるIT技術者へのニーズに応えるため、情報全般に幅広い知識を持ち、業務系や制御系、Web系などのシステム開発能力を持った技術者を育成し、情報処理業界への就職させることを目的とする。								
学科の特徴(取得可能な資格、中途退学率等)	取得可能な資格:基本情報技術者試験 C言語プログラミング能力認定試験 CompTIA ITF+ 中途退学率(令和5年度) 4.7%								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 2,040 単位時間 単位			1,050 単位時間 単位	1,230 単位時間 単位	60 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)					
80人	120人	0人		0%					
就職等の状況	■卒業者数(C) : 56人								
	■就職希望者数(D) : 53人								
	■就職者数(E) : 53人								
	■地元就職者数(F) : 43人								
	■就職率(E/D) : 100%								
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 81%								
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 95%								
	■進学者数 : 0人								
	■その他 自営業 1名 (令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)								
	■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) スルガコンピューターサービス株式会社、スルガ銀行株式会社、パーパス株式会社、宇式エンジニアリング株式会社、株式会社Newデイス、株式会社システナ株式会社 共立ソリューションズ、株式会社電算インフォメーション、矢崎総業株式会社 情報処理業・ソフトウェア業界								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL								
当該学科のホームページURL	https://www.numasen.ac.jp/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数		2,340 単位時間						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		60 単位時間							
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間							
うち必修授業時数		2,040 単位時間							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		60 単位時間							
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間							
(B: 単位数による算定)									
総授業時数		単位							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位							
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位							
うち必修授業時数		単位							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位							
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位							
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0人						
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		2人						
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		1人						
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人						
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人						
	計		3人						
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		1人							

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界の評価を得ている基本情報技術者試験の取得に必要な教育時間を基本とし、システム開発業界において必要な技術や知識の企業ニーズを取り入れて、教育課程を編成している。教育課程編成委員会の企業関係者等の意見を踏まえ、授業科目や内容及び時間数を見直し、教育課程を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業等のニーズを教育に反映させるため、学校組織内における教育課程編成委員会の位置付けを「沼津情報・ビジネス専門学校 教育課程編成委員会の位置付けに係る規則」として、またその運営は「沼津情報・ビジネス専門学校 教育課程編成委員会規則」として規定しており、委員会の意見を教育課程の編成に反映できる体制となっている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
大野 真	CompTIA ビジネスディベロップメントマネージャ	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	①
斎藤 悦生	株式会社NEXUS 代表取締役	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	③
三上 慎太郎	沼津情報・ビジネス専門学校 校長	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	—
上杉 徳彦	沼津情報・ビジネス専門学校 コンピュータ科 科長	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	—
吉田 文昭	沼津情報・ビジネス専門学校 教員	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	—
石野 真明	沼津情報・ビジネス専門学校 教員	令和6年2月1日～ 令和7年1月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年3月7日 14:00～15:30

第2回 令和5年8月29日 13:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

授業・資格検定対策等について法人内他校(静岡、浜松)との情報共有状況(具体的な数値)、国家試験の制度変更に伴い、他校との情報交換を行い教材を含め良い部分を取り入れてはどうか等の指摘があり、対策授業で使う教材を共通で開発する等の話し合いが始められている。今後も定期的に情報交換を行う予定である。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業の開発事例を教材としてシステム開発演習を行うために、あらかじめ企業担当者と登校教員とで打ち合わせを行い、演習内容を精査する。また、演習の結果を踏まえて再度検討会を実施し、教材の改善・授業時間数・内容の修正を行えるようにする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

システム開発演習用の演習教材およびシラバス・教案等を企業の担当者と連携し作成する。この教材・教案にて企業の担当者により講義を行うと同時に演習を行う。演習終了時に当校教員と協議し、教材のメンテナンスや教授方法、演習時間配分などの見直しを行う。全授業終了時には、企業担当者による学生の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
システム開発演習	企業様が業務で行っている税関システムを基に、設計から構築まで講義を交えて演習を行う。	株式会社日本オーエー研究所

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「沼津情報・ビジネス専門学校 職員研修規程」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識、技術の向上を図るため「教職員研修」を、企業等及び研修機関と連携し、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Pythonによる画像処理技術の基礎とプログラミング および特徴抽出・物体検出への応用	連携企業等:	日本テクノセンター研修室
期間:	2024年2月22(水)	対象:	教員1名
内容	写真やWebカメラを使った画像処理や特徴抽出(エッジ)、物体検出の基礎的な考え方		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	ペップトーク コミュニケーション講座	連携企業等:	日本ペップトーク普及協会
期間:	2024年1月5日(金)	対象:	全教員
内容	ペップトークの考え方、授業発信内容のポジティブ化、建設的な話合いのポイントについて		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Python応用研修	連携企業等:	未定
期間:	2024年8月中旬	対象:	教員1名
内容	Pythonの実践的な活用技術の修得		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	指導力向上研修会	連携企業等:	未定
期間:	2025年1月6日(月)	対象:	全教員
内容	教員の教育力・指導力向上に必要なテーマを実施		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、学校教育に反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを目的として運営している。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	基準(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	基準(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(3) 教育活動	基準(2) 教育活動
(4) 学修成果	基準(3) 教育成果
(5) 学生支援	基準(4) 学生支援
(6) 教育環境	基準(5) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	基準(6) 学生の募集と受け入れ
(8) 財務	基準(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(9) 法令等の遵守	基準(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	基準(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流
(11) 国際交流	基準(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員より①キャリア教育の充実、②教員のさらなる資質向上、③卒業生の社会的な活躍のさらなる把握、④地域に対する公開講座を検討・実施してほしいなどの意見が寄せられた。

対応として①例年実施されていたOB/OGによる講話を再開した、②内部研修・外部研修の活用、③については同窓会組織の拡充による支援体制構築、④新型コロナの5類移行を受け、地域活動への参加は再開されている。公開講座についてはその需要も検討しながら講座実施へと進めていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
高木 田鶴子	公益社団法人沼津法人会 女性部会 沼津支部長	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日(1年)	地方法人団体関係者
曾根 輝夫	ランアンドケントス株式会社 代表取締役	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
塩田 美佐代	医療法人社団 真養会 看護・介護統括局長	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
鶴谷 主一	学校法人松濤学園 原町幼稚園 理事長・園長	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
廣住 和良	株式会社ディスタンス・インターナショナル 代表取締役	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
大澤 幸男	株式会社KTSオペレーション 沼津リバーサイドホテル 総務人事マネージャ	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
加藤 正樹	静岡県立三島長陵高等学校 教諭	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日(1年)	地域住民
土井 宣博	株式会社 雅心苑 代表取締役 社長	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
齋藤 悦生	株式会社NEXUS 代表取締役	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
海野 秀伸	協和警備保障株式会社 静岡営業所 業務課管制長	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日(1年)	同窓会
堤 拓也	沼津市役所 市民福祉部 健康づくり課	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日(1年)	同窓会

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.numasen.ac.jp>

公表時期: 令和6年6月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、学校教育に反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを目的として運営している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	入学者数、学修時間数、取得可能資格、卒業者数、主な就職先
(3) 教職員	教職員数、組織、研修
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
(6) 学生の生活支援	カウンセリング、保護者との連携体制
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援措置
(8) 学校の財務	資金収支計算書、貸借対照表
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣状況
(11) その他	その他の教育活動(附帯事業等)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.numasen.ac.jp>

公表時期: 令和6年6月30日

授業科目等の概要

(工業専門課程 コンピュータ科)																
No.	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			フレッシュマンセミナー	思いやりのある誠実な心（挨拶、時間、掃除）をコンセプトに、アクティビティーや実践的な内容を多く取り入れ、挨拶等の基本作法の習慣付けをする。	1前	30	1	○			○	○			
2	○			キャリアディベロップメントⅠ	コミュニケーションスキルの自己の強みと弱みを知り、基本的な考え方とスキルを身につける。	1後	30	1	○			○			○	
3	○			キャリアディベロップメントⅡ	社会や組織で必要とされるコミュニケーションスキルについて、より実践的に理解を深める。	2前	30	1	○			○			○	
4	○			就職活動ゼミⅠ	就職活動を始めるに当たり、業界研究や企業研究等の手順を学ぶとともに、自己分析などを行う。	1後	30	1	○			○			○	
5	○			就職活動ゼミⅡ	履歴書の書き方やエントリーシートの書き方・面接の受け方など自分をアピールするために必要なスキルを高める。	2前	30	1	○			○			○	
6	○			教養ゼミⅠ	各種選択科目から自分に興味のある科目を選択し、一般教養力の向上をはかるための学習を行う。	1前	30	1	○			○			○	
7	○			教養ゼミⅡ	目指す職業・業界に必要とされる一般的知識を含めた教養を高めるための学習を行う。	1後	30	1	○			○			○	
8	○			教養ゼミⅢ	各種選択科目から自分の興味のある科目を選択し、一般教養力の向上をはかるための学習を行う。	2前	30	1	○			○			○	
9	○			教養ゼミⅣ	一般常識や社会的な話題に対する自分の考えや意見を、他者に伝達できるようにすることを目的にディスカッションやロールプレイング形式で学習を行う。	2前	30	1	○			○			○	
10	○			コミュニケーション活動Ⅰ	対人関係の円滑化を図る能力を身につけることを目的とし、各種の特別活動を行なう。	1通	30	1	○			○	△	○		
11	○			コミュニケーション活動Ⅱ	各種の特別活動を通じて、集団活動における個人の役割分担を再確認する。	2通	90	3	○			○	△	○		
12	○			パソコン利用技術	パソコンの機器構成やWindowsの基本的操作、ファイルの操作など実習を交えて学習する。	1前	30	2	○	△		○		○	○	

13	○		HTML	ホームページを構成する言語HTML言語を使って、ホームページを作成する方法を学習する。	1 後	30	1	○	△		○		○
14	○		プレゼンテーション技法	PowerPointを使ってのプレゼンテーション方法を学習し、各自で作成したデータを用いてプレゼンテーションを行う。	2 前	30	1	○	△		○		○
15	○		表計算基礎	Excelの主要な関数を理解し、実務レベルの帳票を作成するのに十分な能力を習得する。	1 前	30	2	○	△		○		○
16	○		表計算応用	Microsoft Office Spacialist(Excel)の合格を目指す講座であり、問題演習を重点的に行う。	1 後	30	2	○	△		○		○
17	○		コンピュータ概論	コンピュータの基本構成、データ表現、論理回路・算術演算回路、高速化技法などを学習する。	1 前	30	2	○	△		○		○
18	○		アルゴリズム	プログラムを作成するうえで必要となる基本的な流れ図記号、変数への代入方法などのロジックの作り方について学ぶ。	1 前	60	4	○	△		○		○
19	○		ハードウェア	コンピュータの補助記憶装置、入出力装置や、情報処理システムについて学習する。	1 前	30	2	○			○		○
20	○		ソフトウェア	ソフトウェアの体系、プログラム言語、言語プロセッサ、オペレーティングシステムなどの基礎知識を学習する。	1 前	30	2	○			○		○
21	○		データベース基礎	データベースの種類、特徴、データベースモデル、3層スキーマの考え方やデータベース管理システムなどについて学習する。	1 前	30	2	○	△		○		○
22	○		データベース設計演習	テーブルから始まり、データの入出力用フォームの作成などデータベースを用いたシステム開発演習を行う。	2 前	30	1	△	○		○		○
23	○		システム開発基礎	情報システム戦略、システム開発技術、ソフトウェア開発技術、システム開発環境などについて学習する。	1 前	30	2	○			○		○
24	○		IT戦略とマネジメント	企業活動、企業会計、標準化、経営戦略、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントなどについて学習する。	1 前	30	2	○			○		○
25	○		ネットワーク基礎	データ通信システムの基本構成、各種装置、伝送制御について学習する。	1 前	30	2	○			○		○
26	○		情報セキュリティ	情報セキュリティの概念や、情報セキュリティ技術、管理方法などを学習する。	1 前	30	2	○			○		○
27	○		プログラム言語 I	C言語を使って、配列・ポインタ・標準関数等の内容を段階的に学習する。	1 通	120	4	○	△		○		○

28	○		オブジェクト指向設計	代表的なオブジェクト指向設計のUMLについて、その記述方法について学習する。	1後	60	4	○	△		○				○
29	○		システム開発演習	身近なテーマを題材に、そのシステム設計を行い、それに基づいてC言語によりコーディングし、さらにテストを行う。	1後	60	2	△		○	○		○	○	○
30	○		システム開発総合演習	システム開発事例の教材を使い、システム開発の各フェーズ（要件定義、外部設計、内部設計、プログラム設計、開発、テスト）を演習形式で実際に開発していく。	2前	60	2		○		○		○		
31	○		Windowsプログラム基礎	C言語の応用としてC#の基本を学習する。C#で簡単なWindowsアプリケーションを開発する。	1後	60	2	○	△		○		○	○	
32	○		ネットワーク設計演習	各種機器を組み合わせて小規模なネットワークを構築し、合わせてサーバの構築について学習する。	2前	60	2	△	○		○		○		
33	○		プログラム言語Ⅱ	企業の開発現場で行われていることを実際に学習するため、企業と連携して企業から提供された課題に取り組む。	2前	90	3		○		○		○	○	
34	○		情報特別講義Ⅰ	各種検定試験に向けて行う対策講座であり、問題演習及び傾向対策を重点的に行う。	1後	120	4		○		○		○	○	
35	○		情報特別講義Ⅱ	各種検定試験に向けて行う対策講座であり、問題演習及び傾向対策を重点的に行う。	2前	120	4		○		○		○	○	
36	○		情報特別講義Ⅲ	各種検定試験に向けて行う対策講座であり、問題演習及び傾向対策を重点的に行う。	2後	120	4		○		○		○	○	
37		○	制御プログラム	マイコンボードの仕組みやその使い方、さらに接続する周辺機器の制御方法を学習する。	2前	60	2	○	△		○				○
38		○	Officeアプリケーション	AccessのVBAプログラム作成方法を学習し、Accessを用いたビジネスアプリを作成する。	2前	60	2	○	△		○			○	
39		○	Webアプリケーション	サーバで動くプログラムを利用し、Webアプリケーションの開発方法を学習する。	2前	60	2	○	△		○				○
40		○	表計算アプリケーション	ExcelのVBAプログラム作成方法を学習し、Excelを用いたビジネスアプリを作成する。	2前	60	2	○	△		○			○	
41		○	スマホアプリケーション	Android Studioを使ったアンドロイドアプリの開発方法を学習する。	2前	60	2	○	△		○			○	
42		○	CADオペレーション	2次元CADソフトの操作方法について学習する。	2前	60	2	○	△		○				○

43	○	卒業研究	2年間の学習成果をまとめるために、グループごとに研究テーマを設定し、学生が独自に総合的な研究を行う。	2 後	120	8	○	○	○	○
44	○	インターンシップ	インターンシップや入社前研修を行う。	2 後	120	8	○	○	○	○
合計				44	科目	101(2340)	単位(単位時間)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
(1) 必須科目及び選択必修科目において不可がないこと。 卒業要件：(2) 出席率が85%以上であること。 (3) 学納金が未納でないこと。	1学年の学期区分	2期
履修方法：選択必修科目は、8科目の内から、4科目300時間を履修し修得する。 (留意事項)	1学期の授業期間	15週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。